



開校44年目

六中だより 10月号

〒352-0023 埼玉県新座市堀之内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku>

全生徒数：676名



分からないことを聞ける環境づくり

～ 美しく・温かく・常に前進 ～

校長 齊藤 直之

秋が深まり、学習、スポーツ、芸術などに適した季節となりました。

先日、全国学力・学習状況調査（3年生対象）並びに埼玉県学力・学習状況調査（全学年）の結果が返却されました。この調査の主な目的は、生徒と共に教師が学習状況を把握し、学力の一層の向上を図る、というものです。基本的な学力を身につけるには、日ごろの授業をきちんと受け、家庭学習を習慣づけること、教師も生徒の強みと弱み（学習状況）をつかみ、授業改善をしていくこと、この2つが両輪となります。そのため、本校では、こうした調査の結果を分析して、課題解決に向け、授業がわかりやすく、魅力的なものになるよう、新座市より3ヶ年の研究委嘱を受け、日々授業改善に努めています。本校の研究テーマは、「豊かな心をもち、自ら考えを表現できる生徒の育成」です。教科の特性はありますが、全教員の意識化を図るため、全ての教科で生徒が前向きに問題に取り組みやすくなるよう、教科間を横断した「授業ベーシック」を策定し、授業を行っております。今後は、その成果を1月に発表することとなります。

さて、話は戻りますが、先述の埼玉県学力・学習状況調査には、学力調査だけでなく、以下のような質問調査もあります。

「問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する」

「勉強していてわからないことがあったら、先生に聞く」

「新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する」

上記の項目は、本校の課題です。調査項目ではありますが、確かな学力を身につける新たなヒントとして、全教員で共通理解をしたところです。

余談ですが、朝ご飯を食べる生徒、新聞を読む生徒は、こうした学力に関する調査で高得点の傾向がある、とのことです。一見学力とは関係のないことがらですが、今後のヒントになれば幸いです。

家庭におかれましては、一人一人の生徒に合った「目標の設定」をしていただき、「家庭学習の習慣化」への見届けをお願いしたいと考えております。目標に向けて学力を伸ばしていくためには、学んだ知識を定着させる家庭学習を習慣化することが、重要となるからです。

生徒をやる気にさせるには、日頃から学習への取組や頑張っていることをほめてあげることも大切です。生徒たちを見ると、伸びる時期やスピードは様々ですが、一人一人は確実に成長しています。

学校では、これからも生徒が現在の実力を知り、分からないことは、分からないと積極的に質問したり、最後まで課題をやり続けられるよう努力したりできる主体的な生徒を育成するために、効果的な指導方法を「常にアップデート」して参ります。（前進）